

事例概要

Aさん 75歳

胃がん末期。1カ月ほど前から食事がわずかしか摂れなくなり、食べても戻してしまうため受診。胃がんの末期との告知を受け入院中だが、衰弱してきている。

夫（77歳）との二人暮らしで、子どもはいない。Aさんは、がんで入院した夫の母親を介護した経験から、自分の最期は自宅で、延命治療をせずに迎えたいとかねてより夫に伝えていた。夫も妻の希望通りに自宅で介護し、最期を看取りたいと思っている。

夫は近所の病院で警備の仕事をしている時に、その病院のメディカルソーシャルワーカーに相談し、介護支援専門員を紹介された。

主介護者である夫は、ガン末期で入院していた母親の経過は病院で見えていたが、在宅でがん末期を看取るのは初めてであり、自分にできるのか不安を持っている。

初回の面接時には要介護認定は申請中であつたが、その後、要介護2と認定された。